

町村週報

(町村の購読料は会費)
(の中含まれております)

2617号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

http://www.zck.or.jp

初秋の日光連山



政 策	厚生労働省・2008年度予算概算要求重点施策〔解説〕……………(2)
情 報	フォーラム 地域素材を活かした元気なまちづくりⅡ滋賀県西浅井町……………(5)
情 報	町村Navi……………(9)
随 想	健康長寿の町をめざして……………(11)
報 告	政策リーダー……………(12)
	岩手県矢巾町長 川村 光朗……………

閑話休題

「回り道の唄」

九州大学大学院法学研究院教授 木佐 茂男

「回り道の唄」というホームページがある。九州から信州の山間地に移り住んだ方が、日々、日本アルプスの周辺の山岳、農村などの風景とともにエッセイを載せておられる。私にとつて癒しの際は「歌声広場」というコーナーである。やや懐かしい青春時代に流れたメロディーの数々は、精神的に疲れているときに、ほっとさせてくれる。

一方、真の癒しを求め小さな島に移り住む方たちも少なくない。山口県萩市の大島は、人口1000人以下であるが、5年で33人が移住し、大半が漁師になり、固定給も20万円はあるという。さまざまな努力の成果なのだが、これらは個人的あるいは地域的に恵まれているほうであろう。

「限界集落」という語も普遍化してきた。ある勉強会で知ったが、限界集落のほうが元気であり、その前段階にある地域がかえって手が付けられないケースもあるという。

今後、農山漁村の自治体では、この種の地域を「消す」方針を採るか、「移住」によってどこかに新定住の場を作るかの苦しい選択を迫られるこ

とになるであろう。

ヨーロッパの山間地を見て思うのは行き届いた手入れの行われている美しい集落である。何が原因でここまで遠つてくるのか、まだ十分な解答を見いだし得ない。今、日本の地域は、ますます荒廃が進んでいるように思われる。人々も、いわんや企業は、公共のためどころではない、自己自身のへ存Vを追うだけで精一杯である。

ちなみに、先の大島では、水洗化率は96.4%、高速インターネット・サービスも始まったという。現代における最低生活の基準を維持した地域づくりをすれば何かが集積し、心遣いにも余裕が出てくるのではない

か。
率直に逆に言えば、日本という国は、東京を「不便」にしなければ、再生不可能ではないか。こうした発想は「回り道」と評価されるか、机上の空論といわれるのかわからないが、首都圏での動きを便利にする方針を止めない限り、東京集中、ミニ東京集中は今後も避け難いであろう。

◎写真募集◎

本誌表紙に掲載の写真を募集しています。四季折々の風物や行事など適当な写真がありましたらご寄贈下さい。(写真には題名、町村名を付して下さい)なお、採否は当方に一任願います。送り先：全国町村会・広報部